# IT TREND

テムを構築、多数のサ

認証を統合。 イントラネッ

へのアクセスは、個人の

ーにアクセスできるシス

利用者認証を一元管理

キュアな環境の中で、

正確な情報にスピーデ

漏洩(ろうえい)

に対する

イン・オンが可能だ。情報 -に対して、シングル・サ

セキュリティー強化、

受けたPCでないと不可能

ドウエアレベルで認証を

だけでなく、

ビリティー向上を実現 ド一括管理によるユ

## 「eWork@CTC」が実現する次世代オフィス環境

報セキュリティ

環境」と「利便性を最大限に発揮できる環境」の二つをトレー ている。「ework@CTC」は、−T企業として不可欠な「セキュアな きく変える情報インフラ「ework@CTC(イーワーク・アット・シ スを霞が関ビルへ統合した。新オフィスでは、従来のワークスタイルを大 営改革プロジェクトの一環として、東京地区に分散していた主要ハオフィ により良いサービスを提供し、 伊藤忠テクノサイエンス(以下、 ―シー)」 の活用により、 顧客満足度の高いサービスの提供を目指し より効率化を推進することを目的とした経

#### 新しい 豊富な実績を基にした 情報 1 ンフラ

法制度の整備に伴 上を目的に展開されて 人情報保護法完全施行 の実現と、オフィスワ、高度なセキュリティ 企業におけるⅠ クにおける生産性の向 制度の整備に伴い、情 、e 文書法施行などの ○五年四月の個 や個別のPCに対するセ

を継続したままでセキュ 境が求められている。 既存環境の利 従来のPC環 現する。

的に見直したオフィス環 を抜本 スコンピューティング技ス環境は、サーバーベー となる。 を大幅に引き下げる結果 キュリティー 歩くのではなく、 術をコアに、PCを持ち 化を招き、 コスト増と業務効率の悪 ドなどでテレワー 次世代セキュアオフィ (投下資本利益率) SOHO) をも実 IT投資のR -対策など、 ・レスオフ I C 力 -ク 環

先行し、具体的なの生産性向上は、 具体的な施策が 理念が

> 従来のワ 顕著になってきた。 かし現在、 難しい側面があった。 大きく変革することが可 としての豊富な実績と CTCのマルチベンダ コスト削減効果も ITの進化で クスタイルを

> > かつ最も優

ビス提供体制を支える新

排除し、徹底した効率性の

ノウハウを生かした「e 体感の醸成とセキュリ の強化をコンセプ

に実現、新しいワークスタイルを創出している。

は、 のサー ンダ

顧客志向型のサ

を武器に、 ーとのリレー

・ドオフせず

イントがある。 第二が顧客企業へのサー

に設計・開発した最先端 る世界有数の先端IT ムズ社やシスコシステ サン・マイクロシステ ショーケースとして しながら、利用者に -ビスモデルを導入 CTCが独自 CTC が有す ション

テムを目指している。積極的に活用されるシス る統合環境を整備するこ のコンセプトには三つのポ Te Work@CTC の強化である 一つはセキ

い情報インフラであ 追求である。 を機能させ、 日本企業に最適なインプリ 関連の全リソースを包括的 れた利用モデルを参考に、 で実装している技術は、 ポリシーの適用を可能に eWork@CTC 拠点統合を機に、 ITガバナンス セキュリティ

いる。

併せ

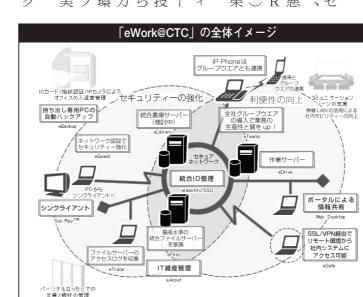
ウエア、統合ポータル、アイルサーバー、グルー シンクライアント、 SSO、ネットワ 現在主に、統合ID管理 を支えるソ T資産管理などで構成され e' W リューションは k@CTC グル 統合フ

#### 利用者認証を一元管理 正確かつ堅固 なシステ 厶

ションを紹介する。情報イにより実現されたソリュー ンフラすべての安心と利便

k @ C T C g n SO (Single 性を両立する基盤となった ものが、統合ID管理・S On)である。

S



実現する。個人認証と個体度の高いワークスタイルを 自由 フリーアドレス制を導入したCTCの霞が関オフィス ても、 タも、 LにJavaカー

込むことで、 さらに先進的な試みとし 社員の固定席を廃止

統合グル 次世代オフィスコミ

理と利便性の向上を実現

拡張予定だ。 近々に、約一千二百台まで のディスクレス端末「Su ン・マイクロシステムズ社 制を機能させるため、 百五十台が稼働しており ている。グループアドレス Ray」を採用。 サ

と高度なセキュリティ

め、万一端末が盗難に遭っのサーバーで管理されるた る席に座り、「Sun 先からの帰社時、空いて く、新しいユビキタス環境 分自身の作業環境をすぐに による利便性の向上を実現 情報漏洩の心配がな すべてセンター側 -で管理されるた さまざまなデ どこでも自 ドを挿 Ra

CTC霞が関オフィス

全社員数の約七五%に絞り と言えるグループアドレス -スと設備コストの削減を

同時に座席数を ーアドレス」

能にし、会議やスケジュたコラボレーションを可 する情報共有を実現させ ュニケーションを具現化 電話については、 ル調整を大幅に効率化 部門の壁を超え

ている。

設定すれば、そこに自分 連携させたCTC独自の 話と、ネオジャパン社のコシステムズ社のIP電 自分が選んだ席のI ウェブグループウエアを P電話システムを導え ネオジャパン社の

るようになって 外出先でも利用できる。 クセスでき、 あての電話がかかってく エアのほとんどの機能を - プウエアの連携も可 また、携帯電話とグル 社員は外出先からア いる。

能

### 最適な環境 継続的に運用 の提案を続け 改善重ね

報賞」を受賞している。 快適で機能的なオフィス本経済新聞社が主催し、 ウエアを構築し、 させた点が高く評価され る「第十八回 を対象に毎年表彰し 便性と高度なセキュリテ Tを最大限に活用し、 「日経ニューオフィス情 今回の受賞理由は、 Cの得意分野であるー オフィス賞」において、 ニュー の融合を見事に実現 日経ニュ 自宅で してい 利 С

ポイントになっている。 適な業務環境が整った段 田勝行氏は、「現在は、 CTC執行役員 CI 日程度実施している。 オフィス環境を実際に見 効果をPDCAサイクル スツアー」というプレ くの企業から、 ンテーションを、 く、CTCでは「オフ こうした報道もあり多 レベルの高さも評価 今後の展開について、 したいとの希望も多 指紋認証などセキュ 定量的な導入 C T C の 毎週 る

改善していくのはこれかに乗せ、継続的に運用・ ます」と語っている。 ものだけでも、 らの取り組みとなります かっていただけると思い 用なものであることが分 いただくことで、 れをお客様に実際にご覧 ンパクトがあります。こものだけでも、大きなイ k@CTCが非常に有 e W o いる

ィス環境の実現を支援す からも顧客に最適なオフ ィス環境の構築で培った 自社オフ

日本経済新聞社広告局企画・制作=

広